



神奈川の研究者紹介

氏名	大矢根 淳 (おおやね じゅん)	
現職	専修大学人間科学部 教授	
主な経歴	北京日本学研究中心(大学院大学)・講師、江戸川大学・専任講師、専修大学(文学部)・助教授・教授を経て、学部改編で現職。	
専攻分野・研究テーマ	社会学(環境社会学、地域社会学、社会調査論)から社会工学分野にまたがって、被災地復興の研究実践に取り組んでいます。	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員 の経験等)	<p>以下、共著を含めて、</p> <p>◇清水展編,2015,『新しい人間、新しい社会―復興の物語を再創造する―』京都大学学術出版会</p> <p>◇木村周平他編,2014,『災害フィールドワーク論』古今書院</p> <p>◇浦野正樹・大矢根淳他,2013,『津波被災地の500日―大槌・石巻・釜石にみる暮らし復興への困難な歩み―』早稲田大学ブックレット(「震災後」に考えるシリーズ29)</p> <p>◇大矢根淳,2012,「被災へのまなざしの叢生過程をめぐって―東日本大震災に対峙する被災地復興研究の一端―」『環境社会学研究』Vol.18</p> <p>◇大矢根淳,2011,「被災地復興の主体と条件―生活再建とコミュニティづくりに向けての覚書―」『季刊東北学 第28号』柏書房</p> <p>◇大矢根淳他編,2007,『災害社会学入門』『復興コミュニティ論入門』弘文堂</p>	
神奈川県との関わり	川崎市多摩区中野島町会で行った防災マップづくりについて、以下に寄稿。大矢根淳,2012,「地域防災活動におけるレジリエンス」『かながわ政策研究大学連携ジャーナル3』。	
メッセージ	<p>【関心領域】</p> <p>東日本大震災・被災地の復興・生活再建に関わる支援・研究実践に取り組みながら、この重い貴重な経験を活かした地区防災のあり方を考えています。日常生活領域で主体的に取り組める防災活動のあり方について、最近では「地区防災計画」制度を利用した防災まちづくりに取り組んでいます。</p> <p>【神奈川県との連携の期待】</p> <p>これまで数年、大学近接の中野島町会(川崎市多摩区)で、皆さんと一緒に「防災マップづくり」に取り組んでみました。多角的・主体的に正しく「地区」を(防災のみに特化したものではなく、広く生活環境を)まなざすコミュニティ活動を、県内一円とどんどん水平展開していきたいと考えています。</p>	
連絡先	〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学・4号館・F17 専修大学人間科学部 大矢根研究室 電話:044-911-1007 E-mail: joyane@isc.senshu-u.ac.jp @を@にかえてください	

神奈川の研究者紹介

氏名	福富 忠和 (ふくとみ ただかず)	
現職	専修大学ネットワーク情報学部 教授	
主な経歴	出版社勤務、ジャーナリスト、デジタルハリウッド大学教授を経て現職。国際大学グローバルコミュニケーションセンター客員教授併任。	
専攻分野・研究テーマ	メディアコンテンツ、マスコミュニケーション、映像	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員 の経験等)	<p>【著書】 「コンテンツ学」(編著 世界思想社)、「インターフェースの大冒険」(アスキー)、ヒット商品の舞台裏(アスキー)、 「文化としてのマルチメディア概論」(聖マリアンナ医科大学) ほか</p> <p>【委員歴等】 「デジタルコンテンツ白書」(デジタルコンテンツ協会・経済産業省) 編集委員長、デジタルコンテンツグランプリ、グッドデザイン賞他の審査員、経済産業省、文部科学省、川崎市、茨城県行方市関連ほか委員歴任。</p>	
神奈川県との 関わり	平成24年度、大学発・政策提案制度に「災害情報配信基盤整備検討事業」で採択。平成28年度神奈川県文化芸術振興審議会委員。	
メッセージ	<p>コンテンツ制作での自治体(川崎市、多摩区、茨城県行方市役所)、団体(かわさき市民活動センター、NPO・ボランティア団体、商工会議所)、企業と、学生・教員による連携事業を数多く行ってきました。PR映像、Web、デザイン制作、ストリーミング配信、映像教室への学生派遣などが含まれます。県全体ではまだ連携事例が多くありません。協力可能なことがありましたら、ご相談ください。</p>	
連絡先	〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学ネットワーク情報学部 E-mail: fukutomi@isc.senshu-u.ac.jp	